

令和7年度 常盤平地区意見交換会のテーマについて

（団体名） 常盤平三丁目町会

（件名） 常盤平地区再生計画の今後のポイントについて

（具体内容）

常盤平地域では、近年著しい高齢化と若年層の減少が進行している。その影響として、地域経済の衰退や学校・商店街の機能低下など、深刻な課題が顕在化している。

令和6年度の意見交換会においては、こうした現状への危機感から、地域の再生に向けた計画の見直しと、UR都市機構との連携によるまちづくりの必要性を提案した。

その後、令和7年2月17日付で、街づくり部街づくり課常盤平駅周辺まちづくり担当室より、今後のまちづくりの方向性となる「常盤平地域のまちづくり方針」の説明をいただいた。

また、令和7年2月18日には、松戸市とUR都市機構との間で「常盤平地域のまちづくりの連携及び協力に関する覚書」が締結され、今後も引き続き全庁的なプロジェクトチームによる検討が進められるとのこと。今後の取り組みに注目したい。

ついては、以下の点を今後の常盤平地区再生計画において、検討していただきたい。

【希望内容】

1. 常盤平団地の人員構成の適正化、20～40代の家族層が増える取り組み
2. 現在居住している高齢者が不利益にならないように取り込む
3. シャッター商店街への支援策や応援企画の検討
4. 常盤平地区の小学校のアンバランスを見直す取り組み
令和7年度新入生：常一小4名、常二小約60名、常三小約80名
5. 子どもが増加した場合の保育園増設等
6. コンパクトで住みよい便利なまちづくり
7. 常盤平市民センターの機能充実（調理室の設置等）

（回答）

- ・ 常盤平地区の再生につきましては、本市といたしましても非常に重要な課題と認識しており、

⇒全庁横断的な「常盤平地区等まちづくりプロジェクト会議」の発足

⇒同地区のまちづくりを「松戸市重点化事業」へ位置付け

⇒同地区のまちづくりに対し「新組織の設置」（常盤平駅周辺まちづくり担当室、その後課へ昇格）

⇒令和7年2月、「常盤平地域のまちづくりの連携及び協力に関する覚書」をUR都市機構と締結

など、地区の様々な課題に対応すべく、まちづくりの検討を行ってまいりました。

- ・ 令和7年2月には同地区のまちづくりの将来像となる「常盤平地域のまちづくり方針」を公表し、「人とみどりがつながる広がるときわだいら」のコンセプトのもと、「暮らし、自然と緑、にぎわい、教育・文化、交通、災害への備え」

などの視点を中心に、方針実現に向けた意見交換を各所で行っているほか、今年度はまちづくりの気運醸成として、「松戸市・URの連携プロジェクト」を実施する予定でございます。

- 今後もUR都市機構や住民の皆様と意見交換を重ねながら、「常盤平地域のまちづくり計画」の策定を進めてまいりたいと考えております。

（回答課）常盤平駅周辺まちづくり推進課

常盤平地域のまちづくり方針（概要版）



○常盤平地域の現状

昭和30年～40年代に大規模な土地区画整理事業により整備された区域が多く、具体的なまちの再生方針を定める必要が生じている

○地域の課題

- 高齢化（UR団地や公共施設などの老朽化 等）
- にぎわいが少ない（少子高齢化 等）
- 地域内の移動サービス（ニーズの多様化 等）

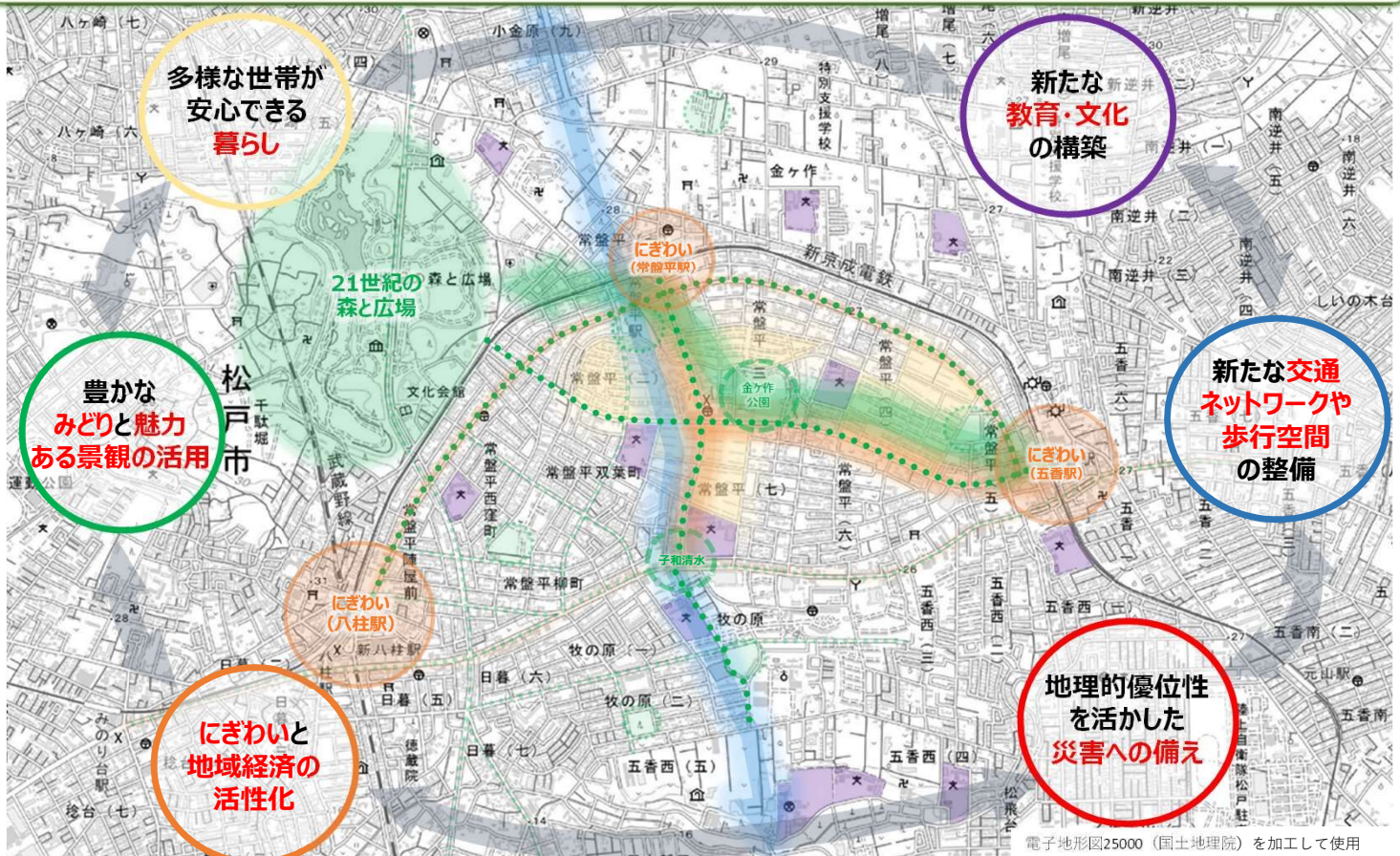
○地域の魅力

- 暮らしやすい（閑静な住宅地 等）
- 水・みどり・歴史が豊か（公園・街路樹 等）
- 満足度が高い（生活環境に満足が5割 等）
- 都心や拠点に近い（東京駅へ電車で50分 等）
- 災害に強い立地

魅力を活かし課題を解決

コンセプト

人とみどりが つながる広がる ときわだいら



電子地形図25000（国土院図）を加工して使用

具体的計画のイメージ

多様な世帯が安心できる暮らし

- ・ UR都市機構の「ストック再生」と連動し、地域の方々や居住者などの声を聞き、寄り添った施策を検討していきます。
- ・ 現在お住まいの方のコミュニティーを大切に、子育て世帯の方も安心して暮らせるよう、様々な住環境を誘導します。

豊かなみどりと魅力ある景観の活用

- ・ 常盤平を象徴する桜並木など豊かなみどりや景観を保全するとともに、暮らしを支える新たなみどりを創造します。
- ・ 常盤平と21世紀の森と広場をみどりのネットワークでつなげ、まちの魅力と価値を高めます。
- ・ みどりある暮らしを楽しみ、「TOKIWALK」の充実など健康づくりの推進、交流機会の創出を図ります。

にぎわいと地域経済の活性化

- ・ 「常盤平さくらまつり」や地域のイベントなど歴史ある催し物などを大切に、まちのにぎわいを創出します。
- ・ 新たなにぎわいにつながるチャレンジを応援し、多様な人たちの活動による商業の活性化を目指します。
- ・ 常盤平地区の玄関口である常盤平駅周辺の再生に向けた検討をします。

新たな教育・文化の構築

- ・ まちの再生に合わせ、よりよい教育環境の実現に向けた新たな教育モデルの検討をします。
- ・ 文化活動を通じた交流が生まれる仕組みを整えます。

新たな交通ネットワークや歩行空間の整備

- ・ まちの再生に合わせ、道路、交通などインフラの再整備を行い、移動しやすい環境を整えます。
- ・ 自動運転などを活用した、新たな移動手段の導入を検討します。

地理的優位性を活かした災害への備え

- ・ 震災等に備え、避難場所・避難所の機能の充実や地域防災力の強化を進めます。

松戸市・URの連携プロジェクトの内容について

① まちあるきイベントによる 地域魅力の発見



② 常盤平の将来を考える トークイベント



松戸市・URの連携プロジェクトの内容について

③ 新たな交流機会を創出する イベント



松戸市・URの連携プロジェクトの内容について

④ 常盤平での様々な取り組みを紹介するPR活動



WEBサイトイメージ



インスタイメージ

URの実証実験の内容について



実証実験のイメージ案



10月以降から月2.3回の頻度
でキッチンカーの出店を予定
(初回予定日：10/21(火))

松戸市・URの連携プロジェクト名（仮）について

常盤平 SONO(園) プロジェクト

観察し、手入れし、育てていく

私たちは、暮らしの基盤を「管理する」のではなく「育む」ものと捉えます。
福祉、緑、経済、教育・文化、道路、防災——これらは単なるインフラではありません。
住民一人ひとりが手を加え、共に手入れをすることで息づく、生きた環境です。

常盤平という場所で、私たちは”庭師”のように、この土地の暮らしを丁寧に観察し、
必要な手入れを施し、次の世代へと育み継ぐことを目指します。

歩き、対話し、共に創り、学びを分かち合う。その積み重ねが、
「人とみどりがつながる広がるときわだいら」という未来を実現する力になる。

SONO プロジェクトは、住民が主役となって地域を育てていくまちづくりのかたちです。

松戸市・URの連携プロジェクト名（仮）について



S

tudy（学ぶ）

まちあるきによる地域魅力発見



O

bserve/open（観察する）

トークイベント等により
常盤平を自分事として考える



N

urture（育てる）

地域で活動する人を育てる
イベント



O

utreach（発信する）

PR活動